ふとふり返ると

近藤喜文画文集

どこだろう？

夏休み

入学・進学の

となりの花やさんちの
ホーリーと
こども達
ホウだいじょうぶョ
さわってても
カワイイ
ネ
みんないくつですか
みんな2才ョ
たんじょう日になったばっかりなくです。
93.7.9

93.7.25

荷台に立っている女の子は、眠っているのではなく、どうやら甘えているようです。彼女の足が素足なのが気に入ったんです。

雨あがり

夏休み
8,20

7.2
橋の上の二人

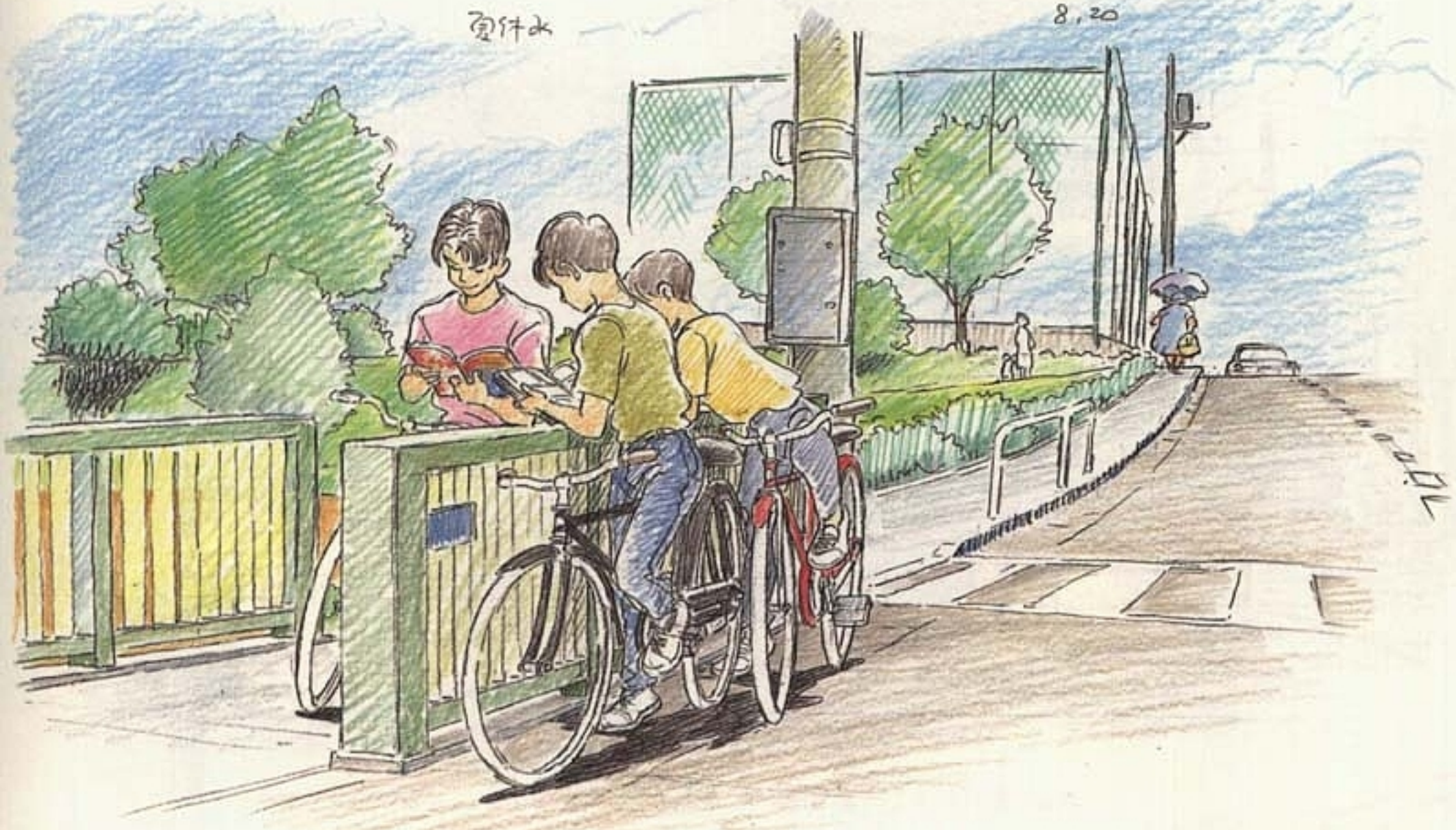
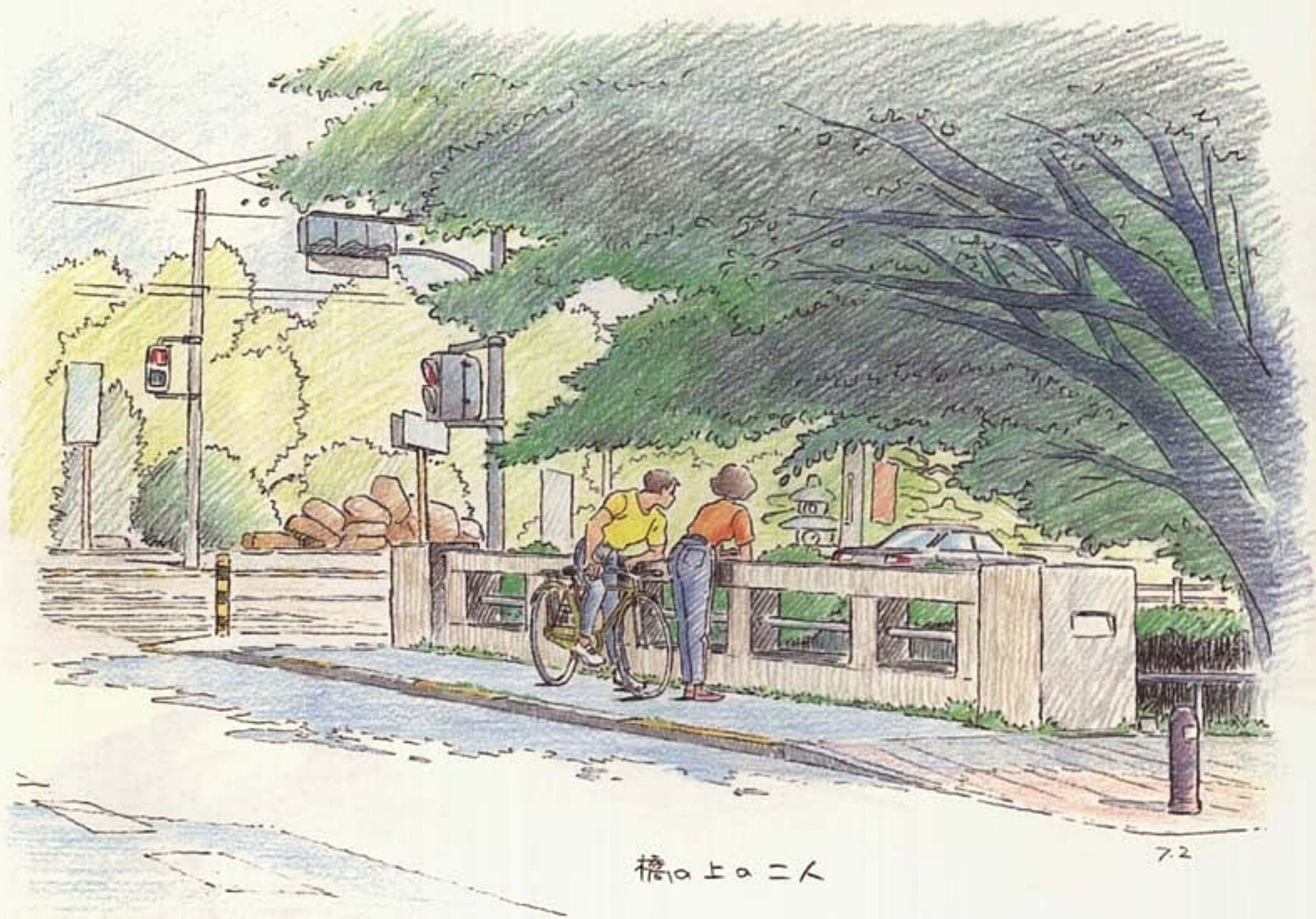
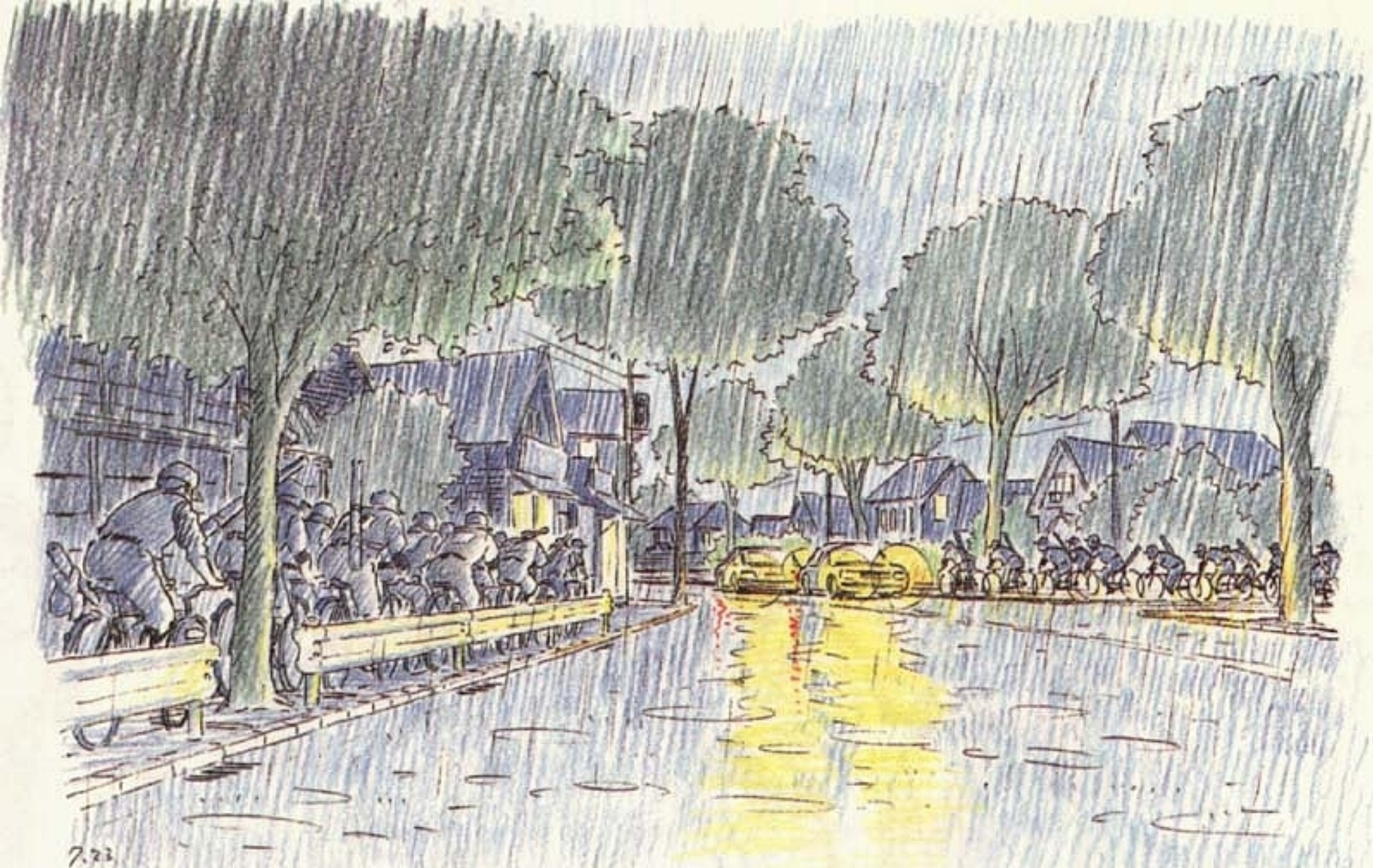
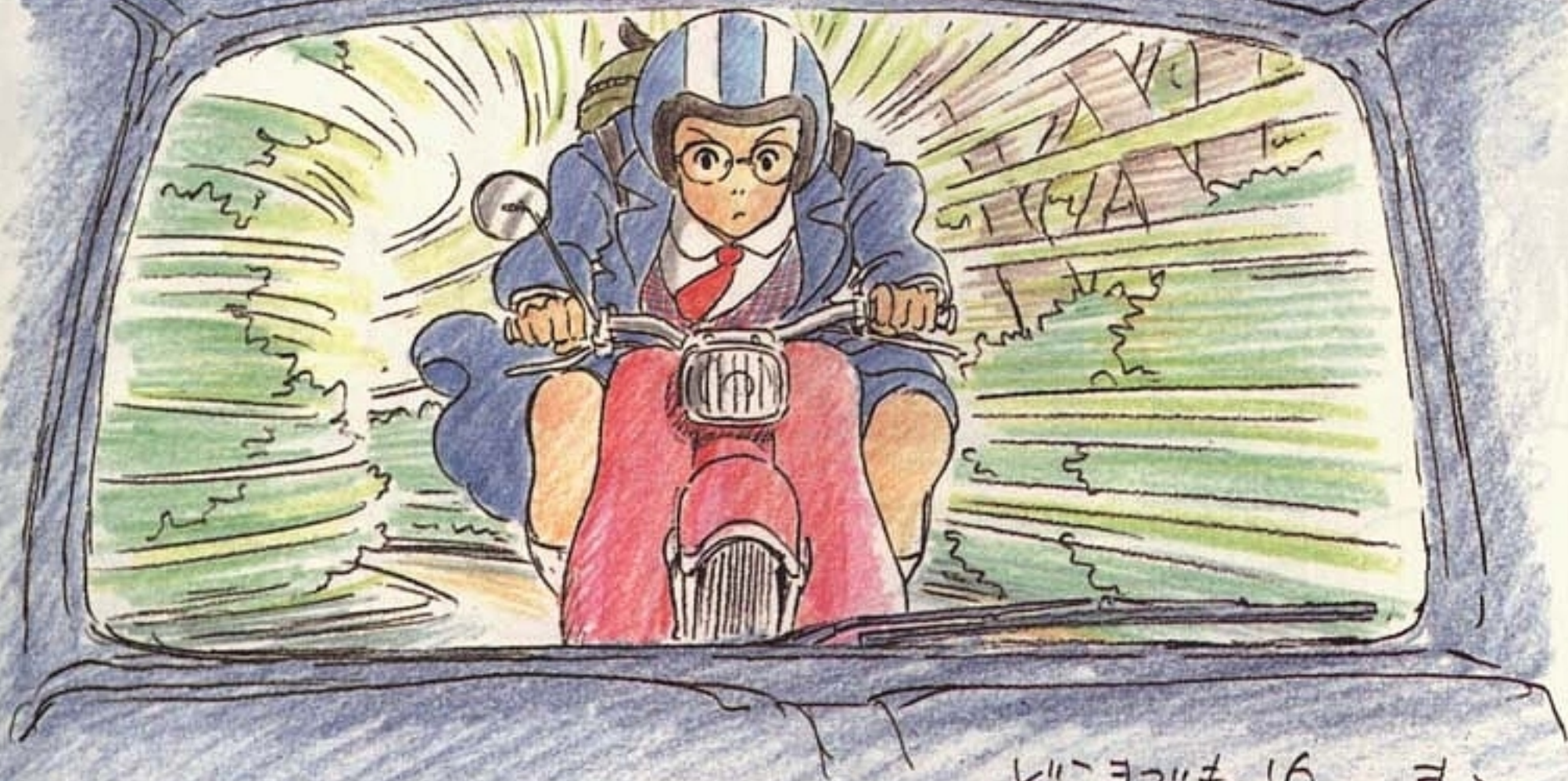
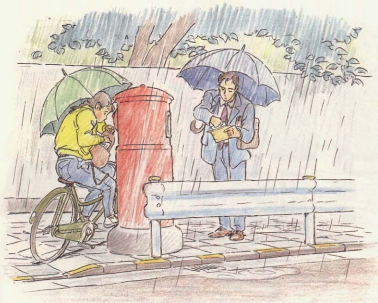
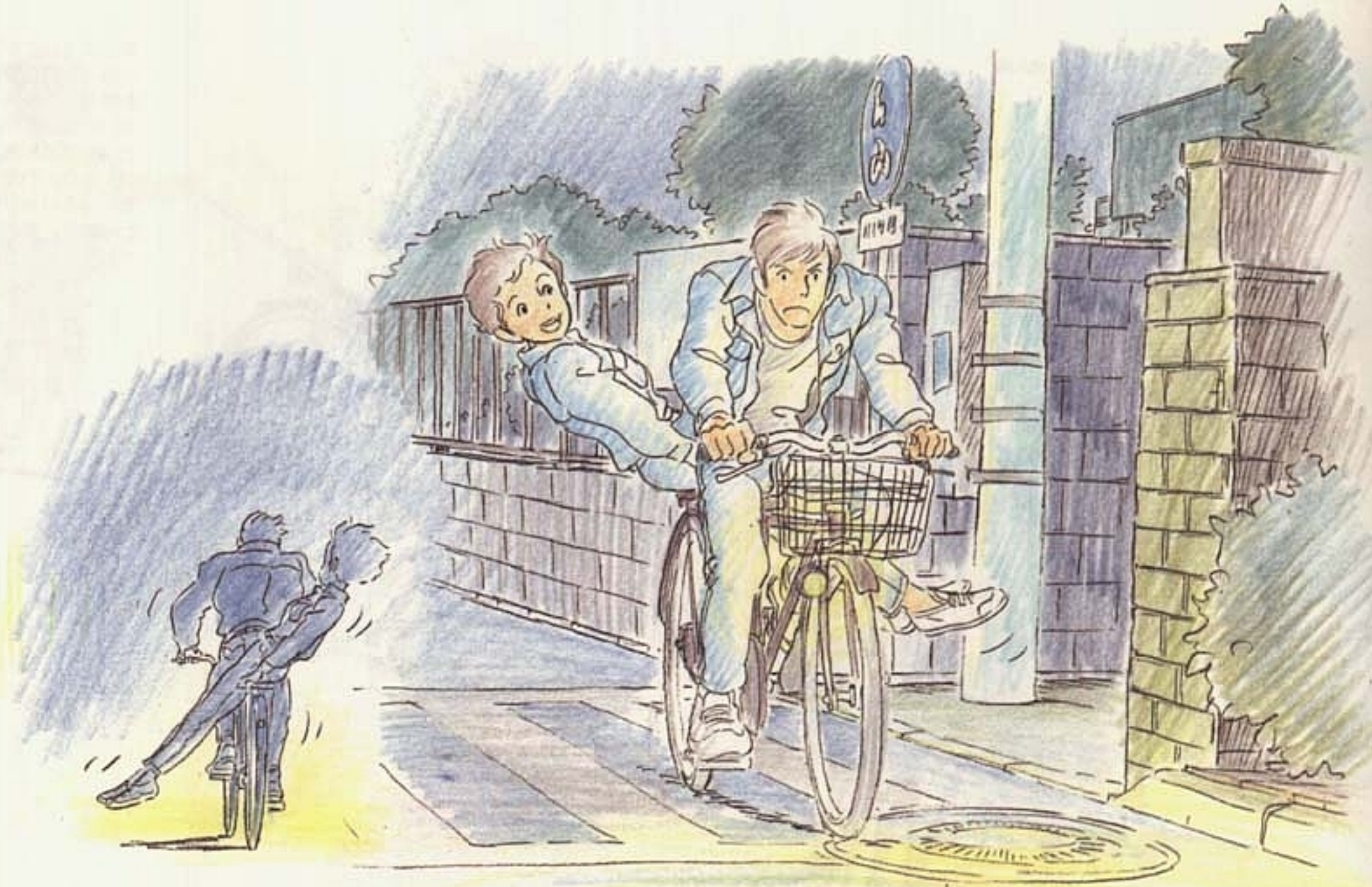
仲良し

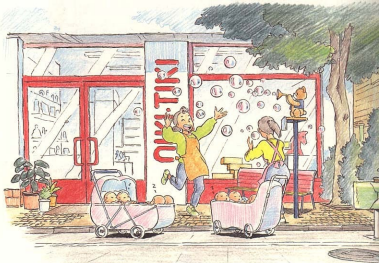
7.22
ガンバレ 野球少年. Jリーグに負けるな.

アオ
どこまでも追って来る!

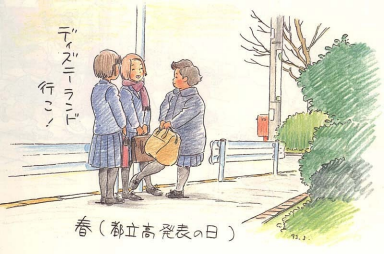
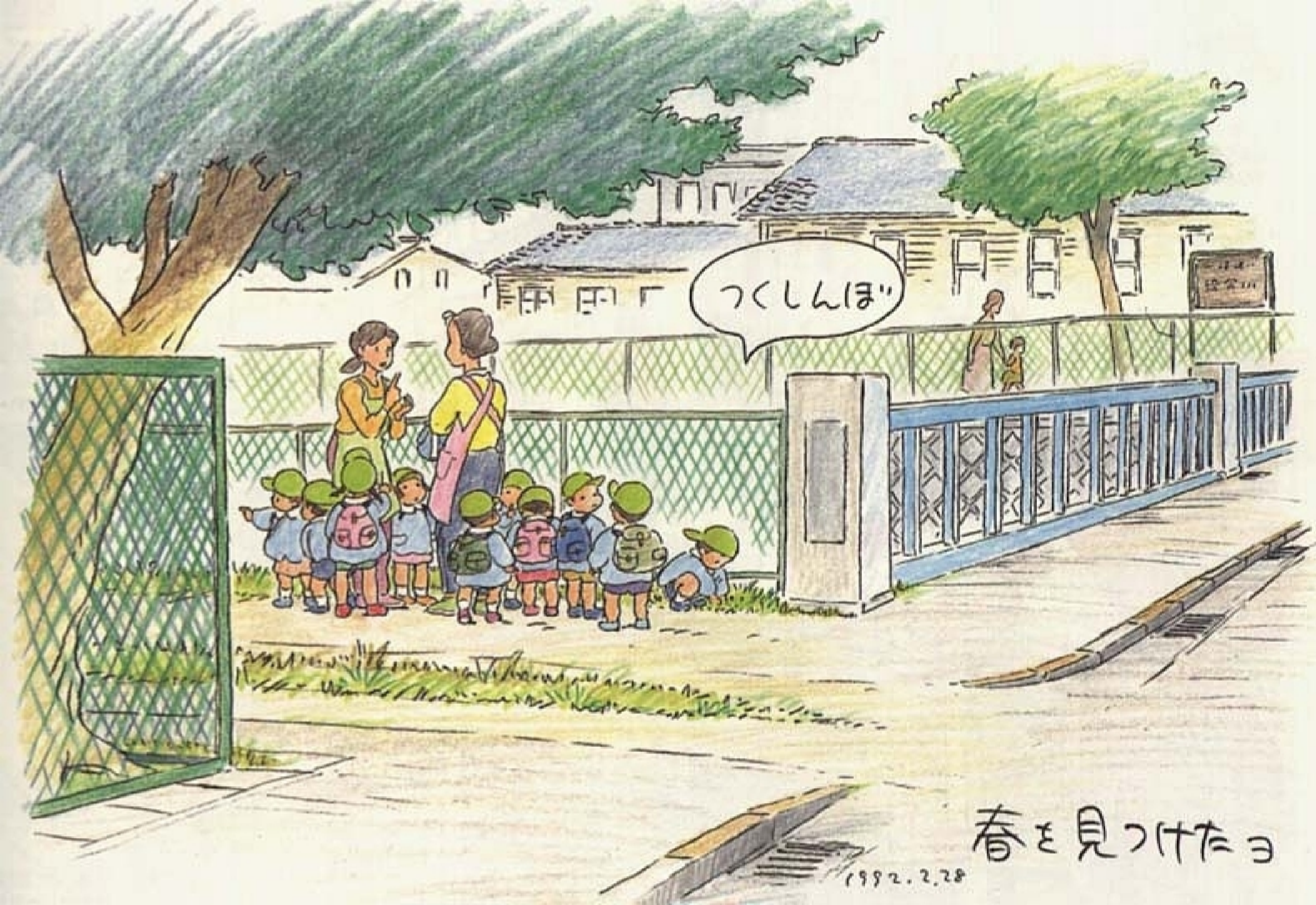
93.5.7
あぶない おじいさん

20

ルキン

7匹の子やぎごっこ
なぜか
1匹しか
いなかった
けど…
どうした
ので
しょう？
すみれ幼稚園にて

雨にもまけず

春（都立高発表の日）

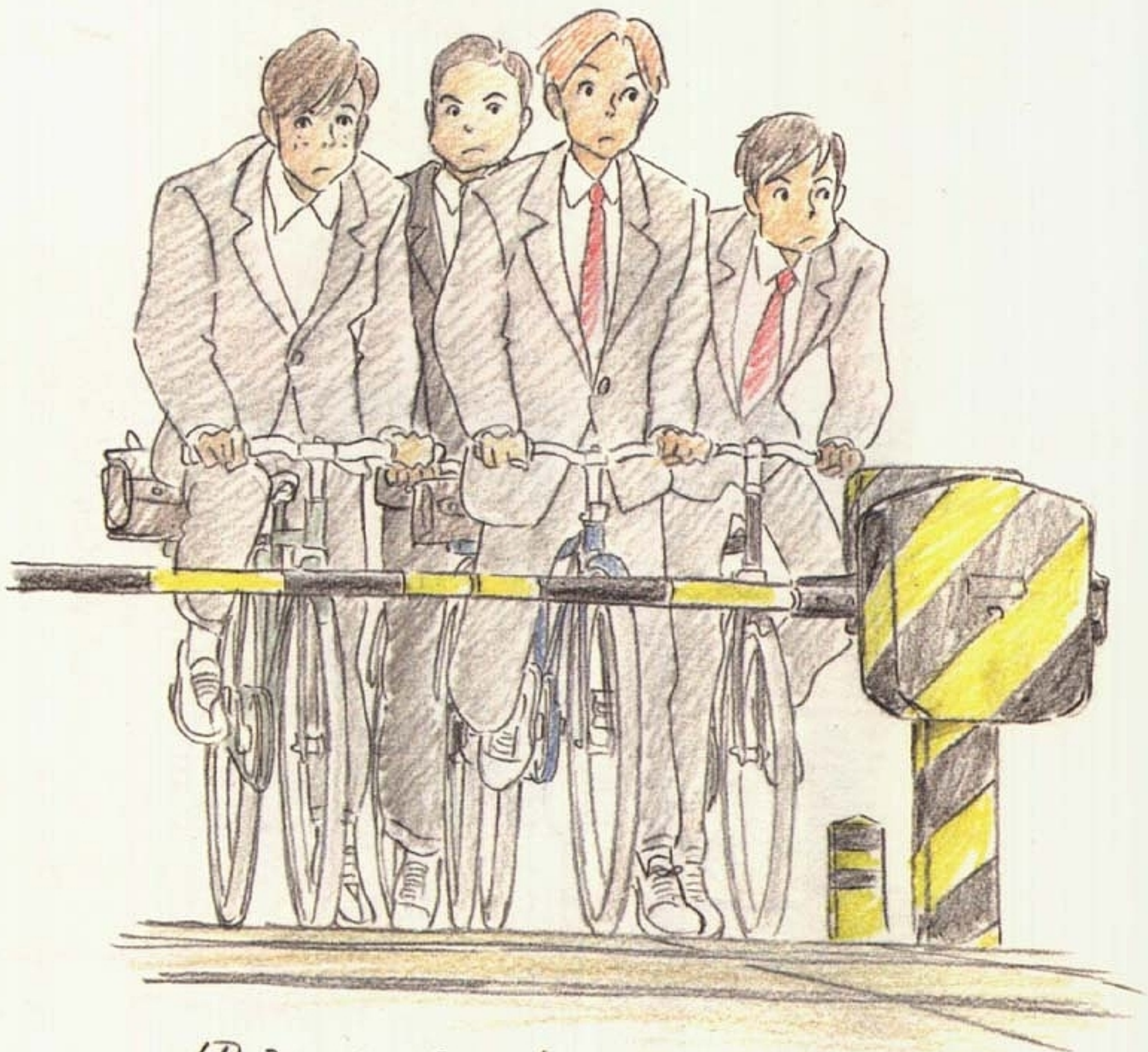
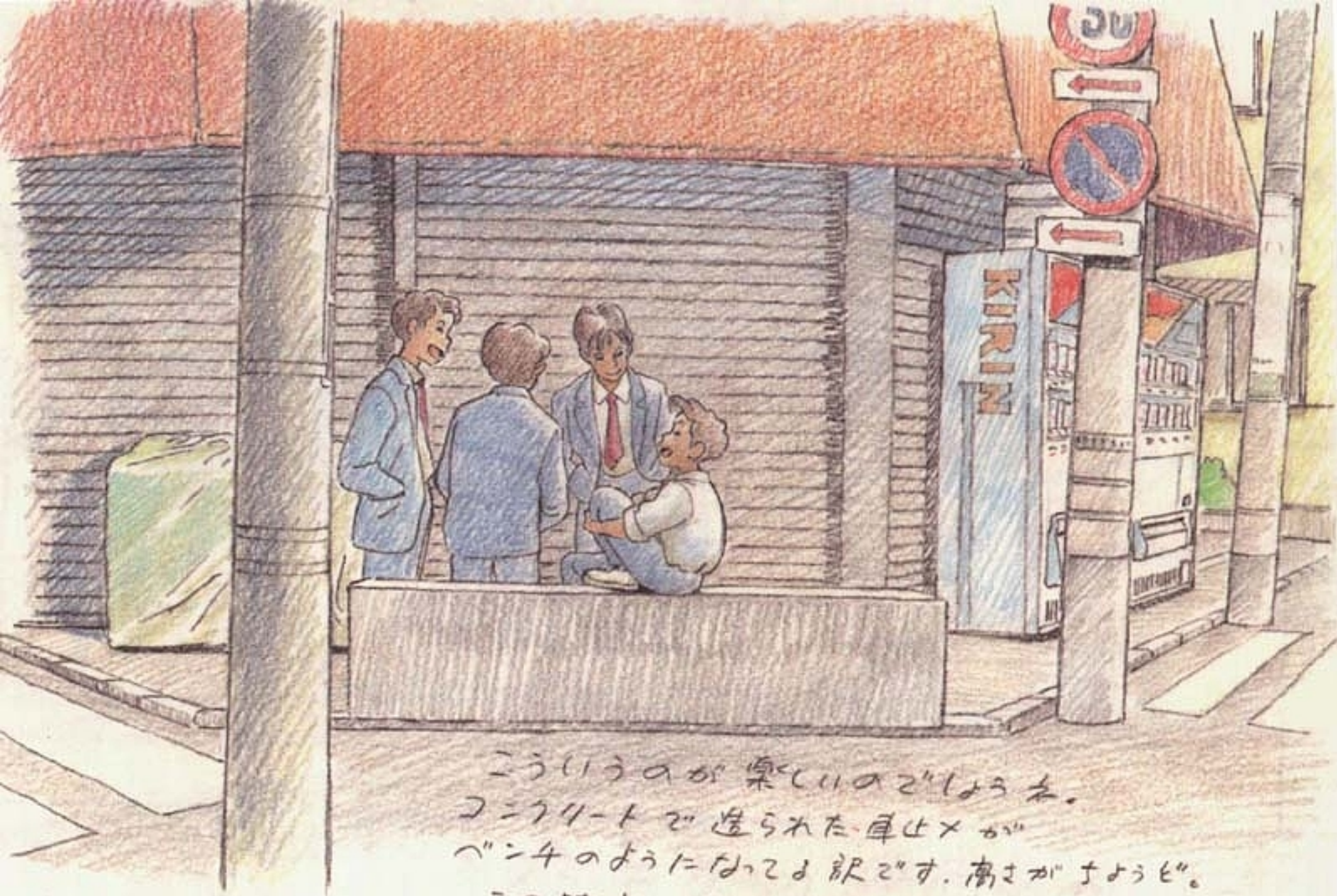
それー

つくしんぼッ
春を見つけたヨ
1982.2.28

93. 2. 25
春がまた　赤い鼻緒のジョジョはいて

どうやら
トトロ
らしい
スタジオの
屋上にて
'94. 1. 29

雪の日
93.1.29

女子生徒はここでも元気で

男子は 今ひとつ パッとしない
ところが おもしろい。

30
KIRIN
こういうのが楽しいのでしょうね。
コンクリートで造られた車止めが
ベンチのようになってる訳です。高さがちょうど。
この時間、どうも授業中らしいんですけど…。

遅い時間なのに、コンビニの
前でひとしきり楽しそうに会話
をしている2人。話しながら
クツを直したりする様子が印象的でした。

梅雨入りまえの
ある日.

ハハハ
ハハハ
ハハ
アハハハ
大きな実験？

バス、はやくこないかな……

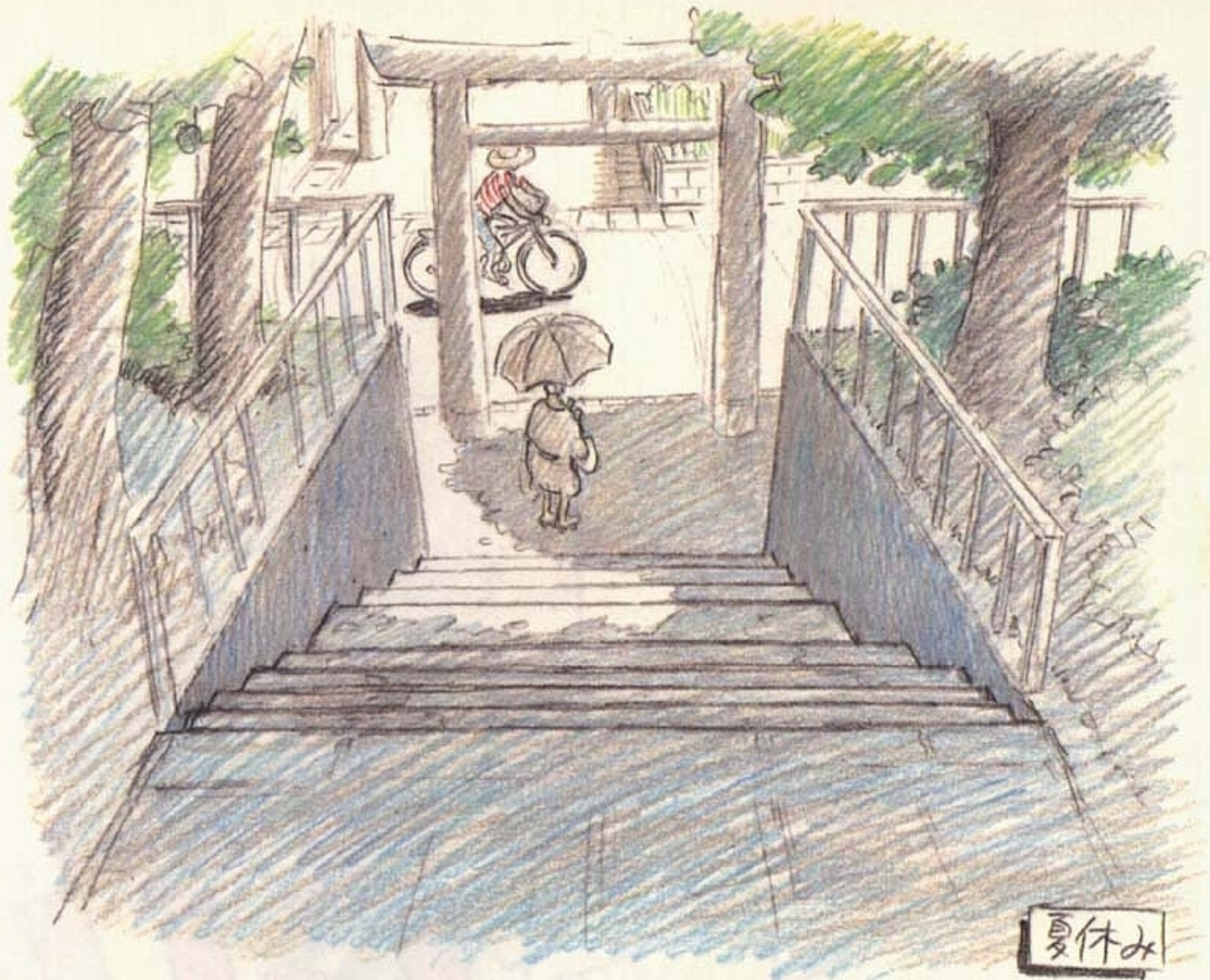
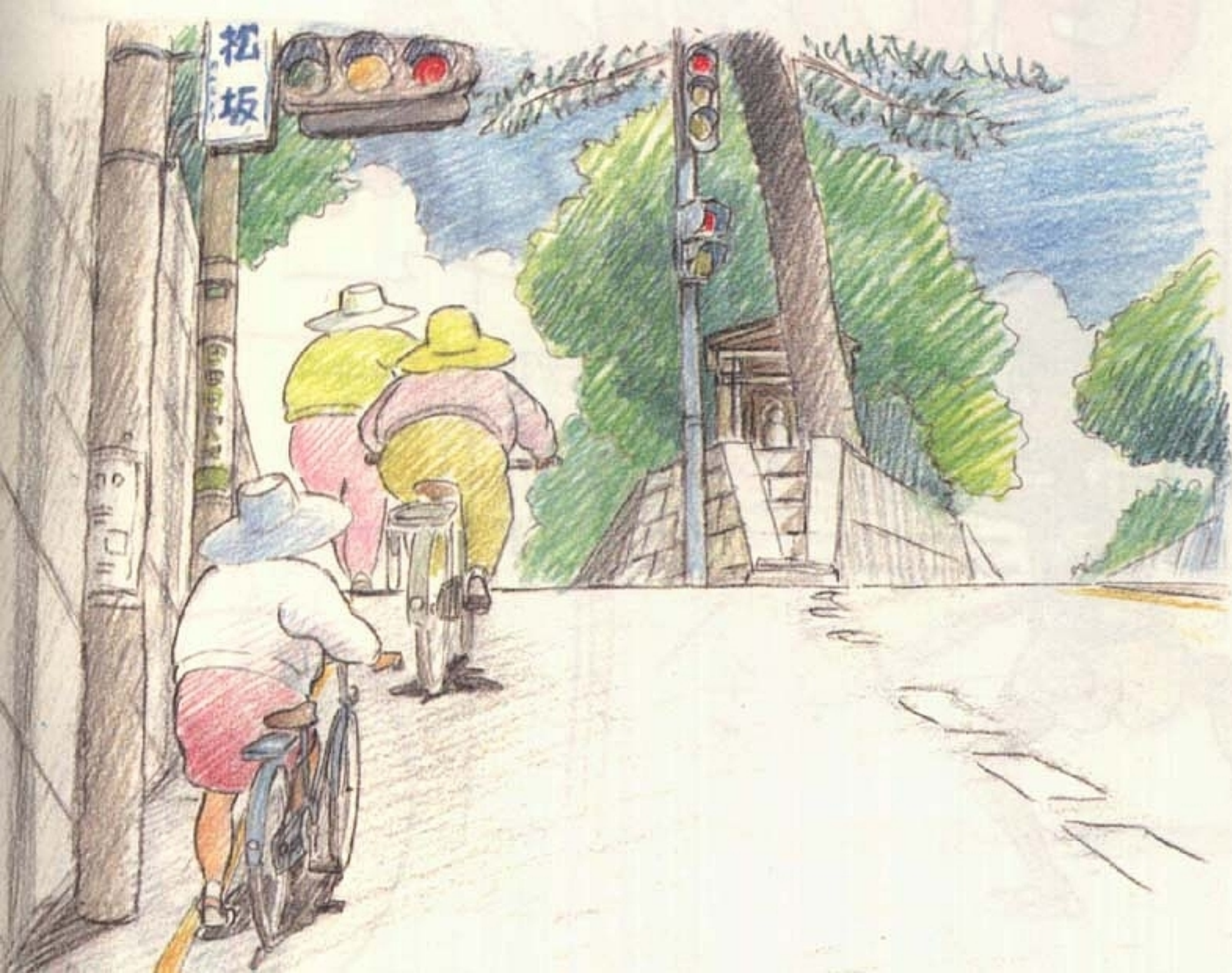
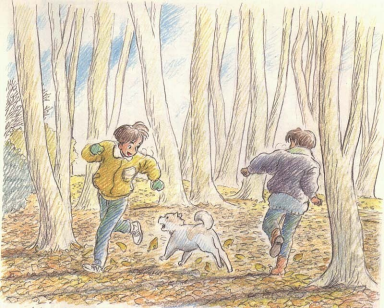
雨の日の3人組
「お兄ちゃん
ボクもいるん
だヨ…」
すけてるカサ
フミキリ

サマータイム
夏の朝

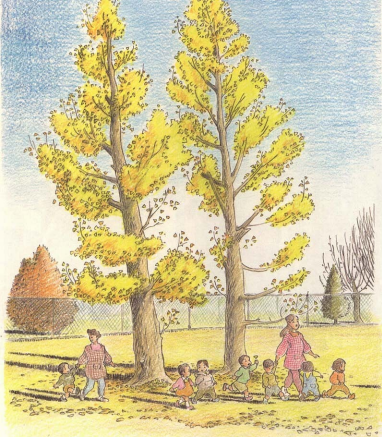
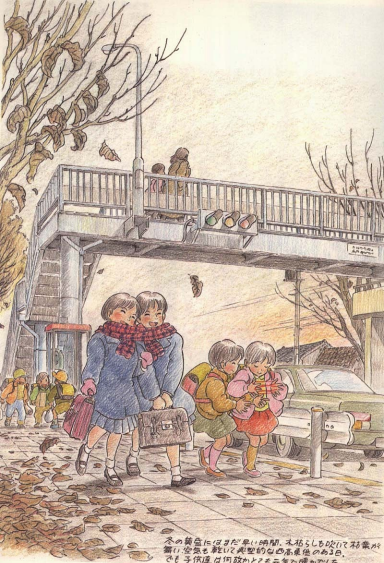
黒
白地に
赤い花
黄みどり
ピンク
サンダル
チョコ チョコと走る

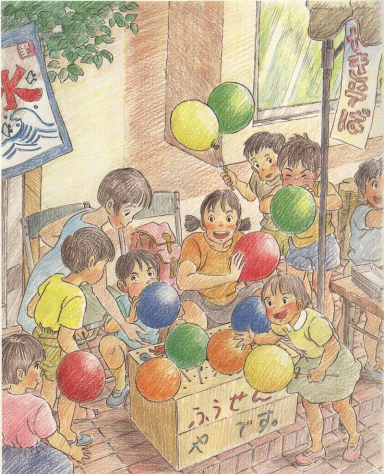
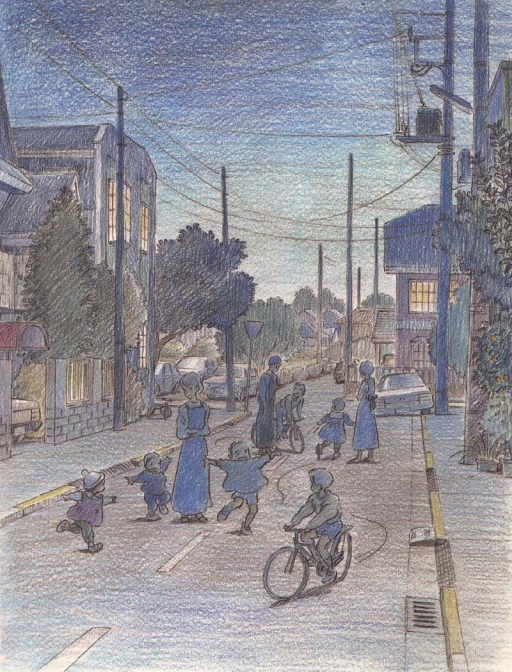
夏休み

白
オレンジ
アオ

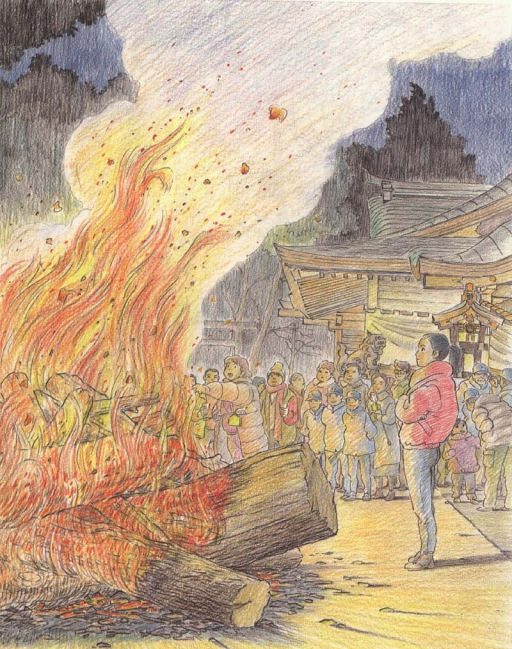
夏休み
雨にも負けず

みんなでわたれば
こわくない？

さあ、いくわヨ！と保母さんのカケ声でわらわら
と走り出す子どもたち。思わず笑ってしまいました。
暖かくなってあちこちで元気な姿をみかけます。

「オレの子どもの頃は、木という木には、全部のぼったものさ。今の子はかわいそうだネ。あぶないからやめろってすぐ言われる」地元のおじさんが嘆いていましたが、近所に子どものあそんでいる木がありました。いつまでも残しておいてほしいものです。空はもうすっかり秋です。
オイおまえたちおれのことデブっていったらしょうちしないぞ！
だってそうじゃん
ローンズマスヤ

「さあ.帰ったらやきいもをやろう」「ウン.やきいも.やきいも」
金色の秋の陽射しの中で　近くの保育園の保母さんと子どもたちが原っぱへ散歩に来ていた、木枯し一号のふいた翌日.子どもたちの影も長くのびて…。

冬の黄昏にはまだ早い時間．木枯らしも吹いて枯葉が舞い．空気も乾いて典型的な西高東低のある日．
でも子供達は何故かとても元気で賑かでした．

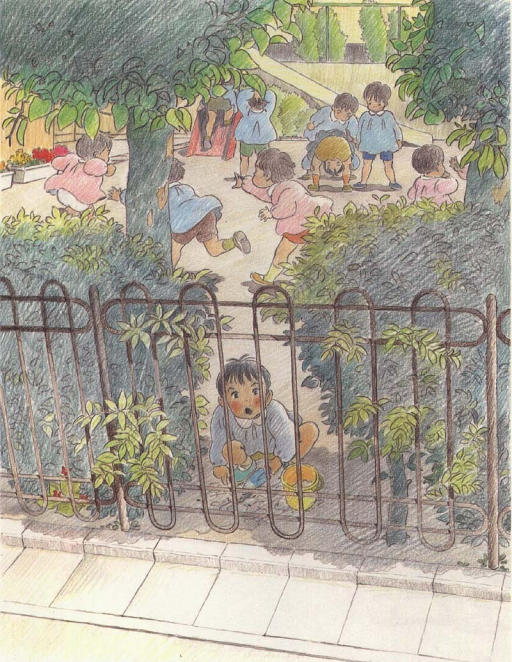
今年の梅雨は雨不足。給水制限、作物の生育が心配されはじめた頃、いつもより早く台風5号が上陸した日。風まじりの雨の中、学校帰りの子ども達は元気元気。3人一緒だと風に飛ばされないもんね。0157菌が全国に広がりそうで夏休みも心配はあるけれど、"二学期には皆んな元気で戻ってらっしゃい!"

団地の夏まつりがあった。築15年の歴史をもつこの団地では、初めての事である。準備会中は、お母さんの知恵、お父さんの力が充分に発揮され 様々な懸念や心配が吹きとばされていった。当日は、お天気も味方して大勢の人達が参加。風船くばりの時には 子供達が積極的に手伝ってくれて「お店屋さんをやってるみたいで楽しかった」と言うのがその感想。何もかも初めての経験だったけれど大人も子供も大いに満足した手作りのおまつりでした。また来年もと心ひそかに願い夏休み最後の行事を終えました。気がつくと吹く風と空の高さに夏の終りがありました。

日が落ちても、ぬくもりが残っている団地内の車道いっぱいに子どものかん高い声が通る。まわりの景色はカゲ色の濃さが増し、子ども達のにぎやかな動きがあっという間にやみに溶けてしまう。
風も冷え、晩秋の一瞬の光景の幕がおりる。

昨日は今年一番寒かった日とか。それなのに今日の気温は10°も上昇。
欅(けやき)や銀杏の葉が柔らかな陽射しにきらめきながら風に舞う。
風向きで変わる枯葉を追って子供達は踊っているかのよう。

冬の陽の落ちるのは本当に早い。あっと言う間に影の世界になる。クリスマス、お正月が控えているせいか、何かと気ぜわになるこの季節、街角の花屋さんの店先に並ぶポインセチア、シクラメンは、暖かな灯りを受けて別世界だ。

除夜の鐘を聞きながら近くの神社へ2年参りに行った。はじめて行ったその神社は、丘陵の上にあり、狭い境内からは180度の展望が出来た。暗く沈む夜景は、近くの団地のあかりだけが目立つ。境内では、神殿と提灯の柔らかい光を飲み込むような焚き火がすごい。投げ込まれる太くて重たい木が夜空に火の子の柱を立てる。花火を見るように喊声をあげ背中をあぶる。お神酒、おでん、甘酒が無料でふるまわれ、新しい年が明けてゆく。来年もこよう。

今年の関東地方は雪も少なく乾燥した冬だったが、昨日は久しぶりに雨。雨が上った今日はまわりの景色もうるんで、春が近いことを感じさせてくれる。そんな休日のお昼頃、すれちがった自転車の二人は女の子同士。服装で男女の区別が出来なくなって久しいが、一瞬こちらはとまどう。
木の芽もふくらみ、自然界の春への準備も進んでいる。

バス停でバスを待つおばあさん。コートをぬいで浅い春のまん中で、何を考えているのかな。どこかメリーポピンズの風情をにじませて、丸い眼鏡に里の花を映している。汗ばむ時もあるけれど、朝晩はまだまだ冷えこんだりで春が定着するには、もう少し時間がかかりそうだ。

今年の桜は 雨にぬれ、あっと言う間に通り過ぎて 行った。それでも路地に花はあふれ、雑木林の柔かな芽吹きは 日ごとに 濃くなる。
　枯れた冬草の上では、タンポポが点在し、よく見るとスミレの小さな花もある。住宅地の 中の空地で、子ども達は 何か さがしもの？

植え込みで 何やら 一生懸命。「何してるの？」
「ボク、むしすきなんだ。アリもすき。ホラ、このしろいのはアリのたまごだヨ。」
日だまりで遊ぶ子、土を返す子、それぞれがそれぞれに楽しそうな幼稚園の昼さがり。

今日は子どもが「鈴なり」
古い団地は子どもの数が減ったと思っていたが、天気が良いと何処からか子どもが湧いてくる。刈り込まれたサツキの植え込みはピンクの花が咲きこぼれ子どもの声で静かな団地は生き返った。台風一過、沖縄では梅雨があけたとか。

陽は沈み、薄暮の時もすぎた頃、水辺の公園に千匹の螢が放たれた。闇に流れる光の点滅は、意外に力があり、それは短い生命の故か、求愛の為か。だがこの池にはカワニナは棲まず螢は生きられない。シルエットに浮かぶ人々と螢の光に暗やみの怪しさと哀しさを感じた日。

一級河川、落合川、いつもは通りすぎる人ばかりなのに、こんなに暑い日は子供も大人もやっぱり水遊び。水量は、水質は、むずかしい環境問題は一寸置いて、水の流れに身をまかす。(演歌調) 川原はひとときな賑わいをみせ、蝉の声も大きくなって夏休みも中盤に入ったある日の光景。

太鼓がなり、揃いの豆絞り、黄色の法被。団地の夏まつりは今年で2回目、手造りのお神輿が大団扇にあおられて、みどりの中を駆けぬける。
一段と本格的になってきた夏まつり、新学期も間近なある日曜日、風はまだ暑い。
（お神輿に女の子が多いのは、男の子が杉鉄砲づくりに熱中していた故）

晩秋の日溜りの中で 小法師のような後姿。ドレミファ と 並んで 何の相談、それとも往く秋に人生を重ねて‥‥それはまだ早いよネ。風に踊る葉も お面白いけれど 風が止むと静ひつな佇まい。
今年は柿の当り年とか、我が家にも柿のおすそ分けが後を絶たないほど。柿の豊作の年は雪が多いという。異常気象 が心配されるこの頃、果してどうなるのだろう。

③
①
②